

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	保育内容（環境）				
担当者氏名	荘司 泰弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 専門基礎-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

子どもを取り巻く保育環境の調整技術を深める。人間だけが生きているのではないことを子ども達に伝える環境を探る。

《テキスト》

ポータルサイトのオンライン講義の資料を対面形式で使用する。

《参考図書》

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

《授業の到達目標》

保育室における保育材の環境、園庭における遊具の環境、自然環境における生命との触れ合いの環境についてさらに深い技術を身につける。

《授業時間外学習》

「保育内容総論」の環境による援助の予備知識が必要です。

《成績評価の方法》

試験 60%
成果発表 40%。

《備考（教員経験の有無）》

「保育内容総論」の関連下位科目です。
実習園庭での栽培実習と保育実習室での壁面構成を課すが、オンライン希望者には自宅での作業とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	生命伝達と栽培について考える。
2	認定こども園教育要領	環境による保育について考える。
3	自然環境と保育活動	春の動植物環境と散歩について考える。
4	壁面構成の環境	原色の不自然さについて考える。
5	園舎の環境	園庭環境の危機管理について考える。
6	保育室の環境	乳幼児の遊具について考える。
7	保育遊具の環境	フレーベル教育遊具、積み木について考える。
8	生活・感覚遊具の環境	モンテッソーリ教具、知育教材について考える。
9	算数・言語遊具の環境	夏の動植物環境と散策について考える。
10	絵本の環境	絵本の読み聞かせと平和教育について考える。
11	援助と支援の環境	発達課題や到達目標の発想を再考する。
12	心を育てる環境	自然をガイドラインにした保育環境について考える。
13	屋外保育の環境	屋外保育と散歩について考える。
14	生命を伝える環境	動植物環境と共存環境について考える。
15	まとめ	発見学習環境を通じた保育について試験を課す。